

「審査の結果の要旨」の概要

- | | |
|----------------|---|
| 1. 課程・論文博士の別 | 課程博士 |
| 2. 申請者氏名（ふりがな） | 朱 庸善(ジュ ヨンスン) |
| 3. 学位の種類 | 博士(工学) |
| 4. 学位記番号 | 博士 第 5679 号 |
| 5. 学位授与年月日 | 平成 16 年 3 月 25 日 |
| 6. 論文題目 | 患者のパーソナルスペースと行動からみた
精神医療施設環境に関する研究 |
| 7. 審査委員会委員 | (主査) 東京大学教授 長澤 泰
教授 藤井 明
助教授 西出和彦
助教授 曲渕英邦
助教授 千葉 学 |
| 8. 提出ファイルの仕様等 | 提出ファイル名 使用アプリケーション OS
朱 doc. Word 2000 Win 98 |

審査の結果の要旨

氏名 朱 庸善

論文題目 患者のパーソナルスペースと行動からみた
精神医療施設環境に関する研究

この論文は、精神病院の在院患者を対象として患者の病棟内での環境行動に関する一連の調査を通じて、患者のパーソナルスペースと行動に関する量的・質的内容を患者属性と治療環境との関連を含めて分析し、今後の精神医療施設の環境整備に際して基本的に考慮すべき点を提示することを目的としている。

本論文は、5章より構成される。

第1章では、本研究の背景・目的のほか、精神疾患の概要、精神病患者と共生できる社会での精神医療環境の整備における問題点と課題を、精神医療に関する社会的認識の調査を通じてまとめている。

第2章では、「保護」から「治療」への歴史的な変遷を概観し、精神医療施設の目的の変化を認識し、現在社会の新しい精神医療に対応した施設環境について考察している。また、日本における施設環境の現状について調査し、精神医療の施設環境は他の医療施設と比較して、面積・設備面で劣っていること、個室が極端に少なく段階的な回復プロセスや多様な疾病構造への対応が困難であることを指摘している。

第3章では、物的環境が患者の感覚にどのように影響するかを把握するため、ある精神病院における病棟内の患者の行動調査を行っている。その結果として具体的には

- ① デイルームにおいて在院患者の着席の状況を観察した結果、患者個人がそれぞれ特定の場所を好んで滞在しており、物的環境と患者の安心感のある環境を選択する心理的要因との関連を見せる一方、特定の場所に強いこだわりを見せる患者群が存在するなどの特異性も把握したことから精神病患者の環境行動から見られる空間認識の一般性と特異性の存在を確認している、

② デイルームにおいて患者は、テーブル席のみまたはベンチのみを利用するこだわりを見せ、テーブル席とベンチがもつ物体それぞれの性格と機能を正確に認知していることから、着席場所・形態からみられる場の認知と行動の特性が存在すること
を考察し、精神医療施設の計画における多様な用途・性格を持った空間環境の設定の必要性を論じている。

第4章では、精神病患者のパーソナルスペースに関する特性を入院患者を対象で行った着席・対面距離の調査を通じて分析している。具体的には

- ① デイルームでの横長ベンチにおける着席の観察を通して、他者が領域に侵入することに対して一定の空間を確保する「スペーシング」機能が不完全である例などから距離認識に相違があること、
 - ② デイルームのソファ配置を変化させ患者が着席する時の反応を観察して物体に対する距離意識を分析した結果、患者の物理的制約の認知と反応に相違があること、
 - ③ 試験者が接近する時の認知と反応、ベンチ着席時の他の患者との隣接距離、ソファ着席時の対面距離・視線、座って会話する時の文化的制約と物理的制約における距離・視線、対峙する時の対面距離相違があること、
- を明らかにしている。

第5章では、以上各章のまとめのほか、欧米や韓国の精神医療におけるノーマリゼーションの方針に基づいた脱施設、地域社会の治療システム構築や施設のモデルなどの実例を検討する一方、患者のパーソナルスペースと環境行動を受容できる社会とつながりのある医療環境について論じて結論としている。

以上のように、本論文は現代の精神医療入院環境の諸問題を実態調査と分析を通して考察し、今後の精神病棟計画に対する基本的な知見を示し、建築計画学の発展に大きな寄与したものである。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。